



# 信州大学 教育学部 同窓会報

信州大学教育学部同窓会報  
【第39号】  
発行人 谷口陽治  
事務局 長野市西長野6ノ口  
信州大学教育学部内  
TEL・FAX(026)238-4370



## 「学び続ける」ということ

同窓会長 谷口陽治

現代の社会は、急速に変化し続けています。新しい技術、価値観、そして環境の変動に対応するためには、私たち一人ひとりが「学び続ける」姿勢を持ち続けることが求められています。教育の現場においても、変化に柔軟に対応し、子どもたちとともに学び続けることが、教師にとっての重要な使命であることは言うまでもありません。

私たち同窓会も、大学で学んだ知識や経験を活かしながら、日々の生活や仕事を通じて新たな学びを得ています。教育学部で学んだことは、決して過去のものではなく、私たちが社会に貢献し続けるための礎です。社会の変化とともに教育は常に進化しており、それに伴って私たち自身も学び続けることが求められています。

そのような中で、同窓会としては昨年度第37回通常総会を、8月11日(日・祝)に開催することができました。来賓の村松浩幸学部長先生ご臨席のもと、38名の出席を得て行われました。また、本同窓会員であられる柳沢京子さんによる『私を導いてく

れたKIRIE』と題しての講演をお聴きすることができました。柳沢京子さんには、かねてより熱望しておりましたきりえ展を、信州大学教育学部同窓会赤煉瓦館にて開催していただいたことに引き続き、今回の講演をお願いさせていただきました。

講演の中で「人と人とのつながりによって、作品がどんどん立ち立っていく」と、柳沢京子さんの一つ一つの作品に寄せる思いを語っていただきました。

私たち同窓会としても、つながりを大事にしながら同窓会事業のよりいっそうの充実をめざしてまいります。

清水直人副会長、嶋田勝彦副会長、宮本由希子副会長はじめ第19期役員一同、これからも、同窓会が一人ひとりの学びと成長を支え合う場であり続けるよう、皆さまのご参加とご協力をお願い申し上げます。

### 第19期同窓会役員名簿

(令和5年8月～令和7年8月)

名誉会長	村松浩幸 (令和7年3月まで)
顧問	西一夫 (令和7年4月から)
	佐野昌男 中田宣彦
	三寺勝美 (令和5年10月まで)
	玉川隆雄 町田修 深澤弘二
	中澤寛 土屋聖史 宮本伸一
	小林亨 吉澤修一
副会長	谷口陽治
監事	清水直人 嶋田勝彦 宮本由希子
本部理事	山岸千賀子 小田切浩一
	小笠原重光 宮川史枝
	畔上一康 (令和6年3月まで)
	岩田靖 齊藤忠彦 茅野公穂
	茅野理恵 酒井英樹 安達仁美
	瀧直也 森下孟 大木雄太
地区理事	藤森隼一
	下伊那 春日直史 上伊那 清水慶一
	諏訪 宮坂均 木曾 川上明宏
	北安曇 塚田秀 安曇野 唐澤信好
	松本 林淳子 佐久 友野修一
	上小 宮島哲也 更埴 町田貞
	上水内 松谷かおる
	須坂上高井 梅本裕之
	中野下高井 山口近
	飯山下水内 吉澤秀
	塩筑 臼井伸明
	長野 宮崎桂子 (令和6年3月まで)
	塩川和泉 (令和6年4月～)
	丸山隆
高校	富岡修
県外	井出良子 功刀道子
幹事	和田裕
	渋谷孝信 (令和7年3月まで)
	中澤卓二 (令和7年4月から)
	宮尾弘子 小林比出代 佐藤利恵
	伊藤冬樹
事務局	中村直人 新谷静香

第三十七回 同窓会通常総会報告

令和6年度第37回通常総会は、次のとおり開催されました。

1 日時・会場

令和6年8月11日(日・祝) 午前9時半開会  
ホテル信濃路「穂高」

長野市中御所岡田町131-4

2 出席者数 38名

〈進行・和田 裕 幹事長〉

3 開会宣言 宮本由希子 副会長

挨拶 谷口 陽治 会長

4 議事

議事に先立ち、会則第16条に基づき、総会議長の互選を行う。

(1) 議長団の選出

塩川和泉・山口 近の両理事を議長団に選出した。

(2) 議事録署名人の選出と書記の任命

林 淳子幹事・松谷かおる理事を議事録署名人に選出し、渋谷孝信・伊藤冬樹両幹事を書記に任命した。

第1号議案

令和5年度事業報告、歳入歳出及び財産目録の承認について

(1) 中村直人事務局長より、資料に基づき、令和5年度事業報告について説明があった。

また、小田切浩一監事より、業務監査・財産監査の結果、適正に処理されているとの報告があった。

原案どおり賛成多数で可決した。

第2号議案

令和6年度事業計画(案)及び歳入歳出予算(案)の承認について

(1) 中村直人事務局長より、資料に基づき、令和6年度事業計画(案)についての説明があった。

(2) 岩田靖幹事より、資料に基づき、令和6年度一般会計歳入歳出予算(案)についての説明があった。

原案どおり賛成多数で可決した。

第3号議案

第19期役員交代・辞任について

谷口陽治会長より、第19期役員交代・辞任の提案があった。理事1名の交代、1名の辞任、顧問1名の辞任が賛成多数で可決した。

6 来賓祝辞

村松浩幸教育学部長のご臨席があり、祝辞をいただいた。

7 閉会宣言 嶋田勝彦 副会長

通常総会終了後には、きりえ作家の柳沢京子氏をお招きし、『私を導いてくれたKIRIE』と題しての記念講演会が開催された。



村松浩幸学部長 祝辞



記念講演会 柳沢京子氏

令和5年度信州大学教育学部同窓会一般会計歳入歳出決算書

歳入合計額 5,465,887円也  
歳出合計額 4,890,359円也  
差引残額 575,528円也 翌年度へ繰越

自 令和5年4月1日  
至 令和6年3月31日

〈歳入の部〉

項目	予算額	決算額	増・△減	備考
1 前年度繰越金	935,871	935,871	0	
2 会費 (新入生)	5,040,000	4,220,000	△ 820,000	211名入金
3 会費 (卒業生)	310,000	310,000	0	28名入金
4 雑収入	100	16	△ 84	利子
歳入合計	6,285,971	5,465,887	△ 820,084	

〈歳出の部〉

項目	予算額	決算額	増・△減	備考
1 会議費	420,000	432,417	△ 12,417	総会・役員会等
2 事業費	1,550,000	1,384,270	165,730	会報・学部後援等
3 事務費	1,570,000	1,371,173	198,827	会報発送・印刷等
4 事務委託費	1,562,000	1,562,000	0	雇用費等
5 雑費	140,000	140,499	△ 499	連合会拠出金等
6 予備費	1,043,971	0	1,043,971	
歳出合計	6,285,971	4,890,359	1,395,612	



ご挨拶

教育学部長 西 一夫

教育学部同窓会のみなさま、平日頃から信州大学教育学部の教育活動をさまざまな形でご支援いただいていますこと、心より御礼申し上げます。本年四月に教育学部長を拝命しました西一夫と申します。よろしくお願いいたします。

日頃より同窓会から学部に対して過大な後援費を頂戴しておりますこと、改めて御礼申し上げます。

教育学部では、日々の学習や多様な社会活動等を通して教師を目指す学生諸君に対する教育活動に尽力しております。新型コロナウイルス感染症の脅威も薄れつつありますが、なお留意しながら大学運営が日常を取り戻しつつあります。こうした雰囲気は、進級してきた二年生を迎えて、キャンパスのあちらこちらから楽しい談笑する学生達の声が学部長室にも届くことで感じられます。

■新たな挑戦

学部では本年度の入学生から年次進行で履修単位の軽減を行います。小学校免許と中学校免許に関わる教科の科目を共通開設することで、高等学校のよくな時間割から学生達の選択の幅を広げて自分の専門を深めたり、不得意科目を底上げしたり出来るようにカリキュラムを柔軟化しました。これによって空き時間を創り出すことが出来るようになります。こうした時間を自分たちの自主活動や近隣の学校に出かけて実践的な教育を知る機会に使えるようになりました。本格的には本年度の入学生が二年生に進級してから始動となります。

また本年度の入学生には総合型選抜によって進学した学生がおります。この入試は地域教員枠入試とも称し、志願者には卒業後に長野県で教員になる強い意志を持っていることを求めています。彼らに対して私から「丸くなるな、星になれ」という某ピール会社のキャッチコピーを伝えました。フックになつたり尖つたりして周囲の仲間を巻き込んでさまざまなことに興味・関心を持ち挑戦して欲しいと思います。

■学び続け、挑戦し続ける

学部の教育はめまぐるしく変化しています。こうした現状を迅速に受けとめて授業で学生達と共に考える。教員も温故知新の発想を意識しながら教育活動に臨んでいます。

学生達も大学での学びのみにとどまるのではなく、視野を広く持ち、さまざまな活動に挑戦してもらいたいと考えています。そのために学部は学生達の活動を支援してまいります。教職員一同、学生の学びを支援しつつ、教育・研究活動に邁進いたします。同窓会のみなさまにおかれましては、引き続きご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。



学部の新転任・転退職教員の紹介

【令和6年〜7年度新転任教員】

内山 琴絵 先生(社会科教育) 令和7年4月1日

中野 良寿 先生(美術教育) 令和7年4月1日

山口 学 先生(教職大学院) 令和7年4月1日

賜 正俊 先生(教職大学院) 令和7年4月1日

【令和6年度転退職教員】

松本 康 先生(社会科教育)

平成24年10月1日 着任、定年退職

寺沢 宏次 先生(スポーツ科学教育)

平成7年4月1日 着任、退職

青山 拓実 先生(言語教育)

平成31年4月1日 着任、退職

尾臺 美彰 先生(教職大学院)

令和5年4月1日 着任、退職

(長野県教育委員会との人事交流)

宮下 昭夫 先生(教職大学院)

令和3年4月1日 着任、

令和6年3月31日 任期満了、

特任教員退職

# 長野市教育支援センターSaSaLaLAND におけるSaSaフレンドの活躍

信州大学教育学部准教授 茅野 理恵

2024年4月、長野市教育支援センターSaSaLaLANDが長野市の8カ所目の教育支援センターとして開所しました。この教育支援センターは「子どもたちが安心して居場所」をコンセプトとし、学校に行けない、行きにくい子どもたちのために設置された施設です。休校となっていた七二会小学校笹平分校を活用していますが、ここは非常に自然豊かな環境の中で、さらに校舎には木がふんだんに使われており、吹き抜けの空間もあってとても開放的です。また、家から出ることが難しいなどSaSaLaLANDまでなかなか足が向きにくい子どもたちにも交流の場をつくりたいという思いから、仮想空間でのSaSaLaLAND（メタバースSaSaLaLAND）も同時に開設しています。仮想空間でアバター（仮想空間での自分の分身として使われるキャラクター）同士での交流を通して、次第に実際のSaSaLaLANDでの交流につながっていくから、メタバースSaSaLaLANDにはそんな家庭と教育支援センターとをつなぐハブのような存在になればという願いもありました。

SaSaLaLANDでは、職員をスタッフ、児童生徒をキッズ、そして大学生・大学院生はフレンドと呼ばれています。また、私も含め保護者や地域のみなさんはサポーターです。SaSaLaLANDでのメタバースフレンドとしての大学生・大学院生の存在は非常に重要です。キッズにとって、親や先生でもなく明確な上下関係もないお兄さん・お姉さんは、安心して自分を表現できる相手になることが多く、また新しい人間関係の中で肯定され、受容される経験が対人関係での回復に大きな効果をもたらしています。

SaSaLaLANDの開設に向けた動きは、構想段階を含めれば2021年12月からスタートしており、教育学部からはおもに4名の教員が参画しています。フレンドも2023年の開設前の事前説明会や体験会から活動が続けてきていますので、今年で活動3年目を迎えることとなります。開所1年目の2024年度は、開所日数221日、登録キッズ204人、1年間で通所したキッズはのべ7835人。フレンドの登録者数は、教育学部生・大学院生あわせて133人、SaSaLaLANDでの活動者数はのべ725人。1日あたり約3人のフレンドが活動してくれたこととなります。フレンドの活動は、日々日常でのキッズとの交流はもちろんですが、毎月第3水曜日にはフレンドオールミーティングを開催し、事例検討や心理支援ミニ講座などを通して学びを深めたり、毎月第4水曜日には体験活動の場としての「フレンドDAY」を開催し、そのための企画・運営も行ったっています。これらの活動は、SaSaフレンド運営委員の学生が中心となつて

すすめています。その他、教育学部の教員サポーターによる「メタバースSaSaLaLAND（仮想空間での活動…三和秀平先生）」「じげんDAY（野外活動…瀧直也先生）」「OYALAND（ペアレントトレーニング…下山真衣先生）」「あやばんコンサート（音楽活動…桐原礼先生）」「もぐらDAY（ものづくり活動…小倉光明先生）」など数多くの活動も展開されています。

最後に1年間を通してフレンド活動に参加してくれた学生の振り返りをいくつか紹介したいと思います。「SaSaLaLANDでの活動を通じて、不登校の子どものイメージが大きく変わった。不登校の子どもは大人しく引きこもりがちというイメージを持っていたが、子どもを取り巻く環境が変わることで、見える姿が全然違うのだと学んだ。」「学校に行っていないことで、不登校というラベルでしか見られてこなかった子どもたちがいるかもしれないと感じた。実際自分も、学校に行っていないという点とは、対人関係上でトラブルを抱えていたり、学習面でうまくいっていないかったりという不登校の背景にありそうなものを安易に結びつけて考えていた。SaSaLaLaでいきいきと活動する子どもたちをみて、一人ひとりがどんな子なのか、強みにも目を向けるようになった。」「子どもを中心に考えられるようになった。大人側の○○させたいという気持ちだけで活動させていないか気をつけるようになった。また、大人の都合だけで子どもをやりたい活動を制限していないか考えるようになった。キッズと一緒に活動する中で、発言や行動にどんな思いがあるのか考えるようになった。」「SaSaLaLaに行く前や初期の頃は、子どもにとって良い影響を与える存在とならなければならぬと思う、自分に何ができるのかを考え、自分はそこで何もできないと感じるとその場へ行くことすら回避していたように思います。しか

の役割がメンタルフレンドとして重要なんだと感じた。」SaSaフレンドとしての活動には、多くの迷いや葛藤がありながらも、貴重な学びの場となっていることを実感しています。SaSaフレンドの活動は、インスタグラムで報告していますので、ぜひフォローしていただきSaSaフレンドの活動を見守っていただければ幸いです。

しSaSaでの活動を通して、肩ひじ張らずただ自分もそこで一緒に過ごすこと、その上で相對している子どものことを考えることの大切さを本當の意味で理解できたような気がします。「自分が何かをしなくともキッズたちは日々関係を作り成長をさせていることに気づいたことが大きい気がしています。ある意味、自分が子どもに何かをしてあげなくてはならない、という傲慢さがどこにあったところから、自分などいなくても子どもは勝手に育っていくことを真に理解したことで、そこから自分でできるのは一緒にただその時を過ごし、楽しむことであると思えました。帰り道に、『ああ今日も楽しかった、来てよかった』と思えることが良いことであると気づくことができました。」「自分が思っている以上に子どもたちは『〇〇が嫌だった』というように学校や家庭での傷つきを言葉にできるんだと感じた。その言葉を否定せずに聞き入れる存在としての役割がメンタルフレンドとして重要なんだと感じた。」SaSaフレンドとしての活動には、多くの迷いや葛藤がありながらも、貴重な学びの場となっていることを実感しています。SaSaフレンドの活動は、インスタグラムで報告していますので、ぜひフォローしていただきSaSaフレンドの活動を見守っていただければ幸いです。



2025年度 SaSa フレンド大集合！



SaSa フレンド All ミーティングでのフレンド DAY 企画の検討の様子



SaSaLAND での1泊2日の夏キャンプ



メタバース SaSaLAND での活動の様子 (自宅や SaSaLAND、学校からも参加)



メタバース SaSaLAND (Minecraft カップにも出場)



教育学部から SaSaLAND への送迎バス (通称 SaSa バス)



光芒祭へ SaSa ショップ出店



SaSaLAND 開所前からフレンドもお手伝い (SaSaLAND 見学会)



フレンド活動配信中

# 教育実践補助事業

## 教育実践補助事業のご案内

平成15年度より実施しています同窓会研究補助事業は、令和元年度より、名称を教育実践補助事業に改め、継続して実施しております。その概要についてお知らせします。

本事業の趣旨は、①日々の教育研究、教育実践を大切にし、自らの授業改善に努めること、②専門職としての教師自らの教育研究・教育実践を磨くこと、③教育の振興・改善についての情報を共有し合うこと、に置かれています。対象者は教育学部同窓会員（同窓会費納入者）で、応募者には、一律1万円を補助しています。

応募希望者は、所定の様式「教育実践補助願及び教育実践概要」にしたがって、同窓会事務局（〒380-18544 長野市西長野6-10）にお申し込みください。できるだけ当該年度の11月末日までに申し込んでください。応募規定の詳細、応募様式等の内容は、同窓会Webサイトをご覧ください。なお、当該年度の教育実践補助はおおむね10名としております。受付可能かどうかを確認しますので、お申し込みの際には必ず事務局までお問い合わせください。

### 生徒の主体性を育む総合的な学習の展開

職員主導の畑活動から、縦割り班による生徒主体の探究的な学びの場へ

伊那市立長谷中学校 館林 洸一

長谷中学校は全校生徒三十一名の小規模校で、地域の方から「子どもと学校は地域の宝」と大切にされています。こうした背景もあり地域と連携した独自の活動を伝統的に行っています。学校横の畑で生徒が給食食材のための野菜を栽培する「畑活動」もその一つです。しかし、これまでは活動の多くを教師主導で行ってきました。その結果、生徒にとって

の目標が曖昧になり、単なる「作業」になってしまっている側面があったように思います。そこで、生徒自身が目標を設定し、責任を持って学習活動を創り、振り返りながら学習していく形を目指し、探究学習のサイクルを取り入れました。教師が計画した活動を生徒が行う形から、生徒が主体的に畑活動に関わることを目指し、全校生徒が担当する作物を選んで、「じゃがいも班」「タマネギ班」のようなグループを編成しました。



これにより、生徒自身が栽培方法を調べたり、地域の農業に携わる方々から教えていただいたりしながら、栽培計画や管理方法をまとめていきました。そして、各グループから全校に向けて発信する機会を設け、担当グループの生徒を中心に畑の活動を進めました。

まず、自分たちの担当する野菜が昨年度までに給食のどのようなメニューに使われているのかを調べました。次に、給食調理員さんなどのような野菜を作れば調理しやすいのかをインタビューして自分たちがどのような野菜をつくっていきたいかを決めました（長ネギであれば白い部分が長いもの、カブであれば大きすぎずみずみずしいもの等）。そこからそのような野菜を育てるにはどうすればよいか、図書館やインターネットを使って調べ、栽培計画を立てました。計画中に生まれた疑問点は、地域の農家の方に質問して明らかにしました。また、生徒会の保健給食委員会の企画では、給食週間にグループごとに担当野菜の「おすすめレシピ」を提案し、野菜を収穫した後にも意識を向けました。

もともと家族の手伝いなどで、野菜づくりに関する経験や知識が豊富な生徒が多く、「うちのおばあちゃんはこの方法がいいって言ってるよ」や「収穫した野菜を長く保存するためにムロ（貯蔵庫）を作りたい」と野菜づくりに対する自分の想いを話題にする生徒が増えてきています。そのような

生徒の姿から少しずつ生徒たちの野菜作りに対する主体性は大きくなってきていると感じています。自然相手の活動なので、葉っぱが虫に食われてしまったりと計画通りにいかないこともあります。ありますが、「じゃあどうしたらもっと収穫量が増えるのだろう」と生徒が新たな課題を設定し、自らの学習のサイクルを生み出している姿が見られます。



すべての野菜の収穫が終わってからは、食料自給率やフードマイレージ、食材価格の面から野菜づくりの活動を振り返りました。生徒の振り返り用紙の中には、「生徒が野菜をつくり、自分たちでその野菜を食べることで達成感や農家の方の頑張りを知れた」と生産者の方の苦労に想いを馳せる生徒や、「日本は食料自給率が低いので、僕たちの世代で食料自給率を上げる小さな一歩になった」と自分たちの活動に意義を見出そうとする生徒の姿が見られました。これからも生徒たちの想いを大切にしながら教師も共に試行錯誤し、日々の「食」や長谷地域の人々、産業との関わり方について考えていける学習をつくっていききたいと思っています。

### 令和6年度 教育実践補助交付者

氏名	勤務校・在籍校等	研究課題
1 館林 洸一	伊那市立長谷中学校	生徒の主体性を育む総合的な学習の展開～職員主導の畑活動から、縦割り班による生徒主体の活動へ～
2 臼井 伸明	麻績村立筑北中学校	筑北中学校における、不登校・不登校への支援の充実～校内中間教室の環境整備～
3 宮島 新	長野市立城山小学校	願いの実現に向け、探究を楽しむ子どもたち～カイコの飼育やシルクの魅力発信活動を通して～
4 松尾 海	信州大学教育学部附属松本中学校	現象を科学的に説明する力を高めるための指導の在り方
5 山口 近	山ノ内町立山ノ内中学校	ふるさとに誇りをもつESD学習の取り組み
6 青木友佳里	長野市立塩崎小学校	「他者」から学ぶ教育活動の推進
7 友野 恵	北相木村立北相木小学校	学力が二極化した学級での算数科の実践
8 望月 政和	安曇野市立豊科南中学校	Co-ordination training（コーディネーショントレーニング）を取り入れた体力向上の取り組み
9 野澤 早織	阿南町立阿南第一中学校	吹奏楽コンクールへの合同参加に向けた実践

卒業・修了生の就職状況

就職部長 徳井 厚子

教育学部の就職支援活動に對しまして、教育学部同窓会の皆様には日頃より多大なご支援を賜り、心より感謝致します。令和6年度教育学部卒業生及び大学院教育学研究科修了生の進路状況が下表のとおりになります。

学部卒業生については、進学者を除く就職率は97・37%、教員就職率は73・16%で、前年度(令和5年度)と比較すると就職率は0・17ポイント減、教員就職率は6・66ポイント増となりました。

令和8年度長野県公立学校教員採用試験の一次選考は、令和7年6月28日(土)・29日(日)に実施され、二次選考は7月下旬から8月上旬に実施されます。採用数は小学校教諭250名程度、中学校教諭130名程度、養護教諭10名程度、特別支援学校教諭60名程度、高等学校教諭130名程度となっています。小学校、中学校、特別支援学校の選考で一次試験の集団面接が廃止され個人面接に変更される等、今年度から様々な変更点があります。

学部全体で教員就職率の向上を目指しております。就職部会では、教員採用試験に向けて、模擬個人面接の実施等を計画しております。学部では就職コーディネーターによる相談等を行っております。また信濃教育会との連携協定を締結し、教員養成講座への学生参加等様々なご協力をいただいております。

今後とも皆様からの忌憚のないご意見・ご要望をお寄せいただきますとともに、変わらぬご支援を賜りますようお願い申し上げます。

令和6年度 卒業生 就職状況

Table with columns for '就職・進学別' (Employment/Advanced Study), '就 職' (Employment) - 県内 (Prefecture), 県外 (Outside Prefecture), '進 学' (Advanced Study) - 大学院 (Graduate School), 専攻科 (Specialized Course), 専攻校 (Specialized School), '現 職' (Current Employment) - 小 (Elementary), 中 (Middle), 高 (High), '未 定' (Undecided), '合 計' (Total), '備 考' (Remarks). Rows include various education courses like '現代教育コース', '野外教育コース', etc., and a summary row for 'キャンパス合計'.

(注) ( )は臨探で内数、○は外国人留学生で内数 9月卒業なし

就 職 率 (学 部) (進学者を除く) 97.37 % 97.54 %
教員就職率 (学 部) (進学者を除く) 73.16 % 66.50 %
教員就職率 (学 部) (卒業生に対する) 62.05 % 56.49 %
令和5年度

信州大学教育  
学部同窓会

### 第38回通常総会(通知)

- 1 日時  
令和7年8月11日(月・祝)  
午前9時30分～
- 2 会場  
「ホテル信濃路」  
(長野市中御所岡田町)
- 3 内容
  - 議事  
令和6年度事業報告・決算報告、令和7年度事業計画案・予算案の審議他
  - 記念講演会  
11時00分～12時15分
  - 祝賀懇親会  
12時30分～14時30分  
会費 5,000円

※参加申し込みについて  
今までのながきによる申し込みは廃止します。  
下記のQRコードを読み取り、専用フォームより申し込んでください。  
メール、FAX、官製ながきでの申し込みでも結構です。その際、住所、氏名、電話番号、参加項目(1 総会、2 講演会、3 懇親会)を明記してください。  
7月31日まで  
に申し込んでください。



申込フォーム

#### 記念講演会

### 学生たちの挑戦を後押し

### 「Educational Challenge」事業紹介



信州大学学術研究院  
教育学系教授 博士  
(前教育学部長)

### 村松 浩幸氏

令和6年度末で3年間の学部長任期を終えることができました。この間の同窓会の皆様のご支援に心より御礼申し上げます。私は「学部の Well-being」を理念に掲げ、本学に関わる皆さまのやる気やアイデアを引き出し合い、課題解決に挑む。幸せを実感できる場づくりを目指してきました。この実現に向けた一つが「Educational Challenge」です。

教育現場の課題は年々複雑化しており、学部授業だけでなく対応しきれない現実があります。学生自身が課題を見つけ、多様な人々と協働し、失敗を恐れず挑戦する場を提供したいという思いから、本事業を創設しました。今年度で4年目を迎え、各所で高く評価されています。本事業では、学部学生・院生が主体となり、教育に関わるプロジェクトを提案してもらい、採択で最大10万円支援。継続型と新規型の2部門を設け、学生の自主性・独創性・教育的意義・地域連携などを多

面的に評価し、厳正に採択を決定しています。毎年6～7件採択されています。

令和6年度は、伝統工芸と書の融合、病院の子どもたちへの学び支援、パラスポーツの普及活動、アートによる子ども支援など、多様なプロジェクトが展開されました。その中で「久しぶりに笑った子どもの姿を見た」という病院スタッフの声に支えられた活動やその感動、「私たち大学生も大きな学びを得た」など学生らの成長の姿が多々報告されました。今年度分を募集しており、どのような提案が出てくるか、楽しみです。

本事業は企業・法人9団体、教育関連3団体。地元住民自治協議会、さらには個人など、多くのご支援で実施できています。この場を借りて深く感謝申し上げます。今後も、学生の可能性を引き出す挑戦の場として継続し、さらに充実させてまいりますので、ご支援・ご助言を賜りますようお願い申し上げます。  
事業ウェブサイト  
[https://fablab-nagano.org/educational\\_challenge/](https://fablab-nagano.org/educational_challenge/)

#### プロフィール

- 長野市出身。長野県中学校技術科教諭、三重大学教育学部を経て現職。
- 教育学部前学部長・研究科長、日本産業技術教育学会前会長、NHK高専ロボコン審査委員長等を歴任
- 本年度は、中学校の技術・デザイン系部活動の地域移行を支援する社会法人「Nagano Tech Style Lab」

を立ち上げ、代表理事。

○専門は技術教育学で、技術教育に関する著作や論文も多数。主な研究テーマは「技術教育における Creative learning」

○2015年度文部科学大臣技術分野表彰等、複数の受賞。

○学部に教員養成系初となるデジタルファブリケーション工房「FabLab長野」を設置し、STEAM教育にも取り組むなど、各所と連携して創造的な学びを展開中。

### 事務局より

#### 住所変更のお願い

住所や姓が変わりましたら、事務局へご連絡ください。同窓会ホームページの「住所変更」で手続きしていただくか、メール、FAX、電話等でも結構です。

#### 教育実践補助申請受付中

教育実践補助事業申請を4月より受け付けています。詳細は同窓会ホームページをご覧ください。また、本号の6ページ「教育実践補助事業」も参考にしてください。昨年度の助成受付の実践テーマなどが掲載されています。

#### 「支部、学科・コース等の同窓会活動支援事業」について

同窓会活動を一層魅力あるものにしていくための一つとして「支部、学科・コース等の同窓会活動支援事業」を進めています。それぞれの地区ごとや、卒業学科・コース等の同窓会活動を支援することで、同窓会活動への関心を高め、会員相互の連帯を一層高めることを目的とし、その活動に対して、若干の補助をするというものです。

詳しくは、同窓会ホームページの「事業紹介」のページをご覧ください。申請書、報告書のダウンロードもできますので利用してください。

#### 事務局連絡先

TEL/FAX 026-238-4370  
(TELは月・水・金 9:30~16:00)  
HP <https://www.shinshu-u.ac.jp/group/education-almni/>  
Email [k62dousou@gmail.com](mailto:k62dousou@gmail.com)